

(陳受25第14号)

武蔵野中央公園北ホール利用に関する陳情

受理年月日

平成25年11月14日

陳情者

エアロビクス スバル ほか142名

陳情の要旨

武蔵野中央公園北ホール（以下「北ホール」という。）は、昭和61年12月に武蔵野市八幡町に開設されました。ロビー・調理室・多目的室・ホール・会議室があり、多くの市民に利用されています。かつて八幡町地区周辺には大きな施設がなく、広い施設での活動を要望する市民のために、市が社宅を建設する富士重工（株）と協議し、運営を市で負担するかわりにビルの一部を市民コミュニティ施設として開放するように要請したと聞いております。

私たちは、北ホール開設間もない昭和62年から、約26年もの長い間、エアロビクスのサークル活動を通して市民の体力増進、仲間づくり、さらには子育て中の会員のために託児を行っており、現在に至るまで非常に多くの市民の方々にご参加いただいております。

会員数も常に40名前後で、このまま北ホールでの活動が続くものと、ホームページやポスターで会員募集をしてまいりました。ところが、今年9月に北ホールを今年度内で閉館するという話が突然飛び込んでまいりました。市の担当課に問い合わせたところ、今年度内で補助金を打ち切る方向で、市が北ホールの所有者であるスバルの関連企業、スバル興産（株）と協議しているという事実を確認しました。このことは利用者には全く周知されておらず、新しい八幡町コミュニティセンター（以下「はちコミ」という。）建設時にも、利用者に対して北ホール閉館の話はされておられません。また、タウンミーティングの場でも話し合われておりません。運動を主体としたサークル活動は、スペースのないはちコミでは不可能であり、体育館や他のコミュニティセンターも検討し視察しましたが、常に予約がいっぱいスペースの問題が生じ、北ホールの代替施設にはならないという結論に至りました。

北ホールを利用している団体は、ダンス・書道・カラオケ・卓球・キッズ英語・絵画・新体操など80団体以上あり、昨年度は北ホール全体で年間1万8,000人余り、日に60人を超す利用があり、市民活動になくてはならない施設となっております。しかし、多くの団体が今年度をもって閉館する話を全く聞かされていない状況です。

以上の趣旨から、下記のことを陳情いたします。

記

- 1 市が利用者の声を聞く懇談会を早急に開き、利用者の意見を尊重したこれからの北ホールのあり方を検討すること。
- 2 平成26年3月末日をもって閉館するのではなく、北ホールの今後の方向性が決まるまでは、引き続き市民に開放すること。
- 3 市がスバル興産（株）に利用者の声を伝え、協議を続けること。